

和漢俳諧集

5
4674



和漢俳諧集序

或云漢和俳諧也者上古仲磨與

唐人詩歌贈答之遺風也未知其
當否也近世行于世體格備而殊
有風致矣暮雨巷人心深好之友
會同社以止為樂人或得對句之

昭和十六年一月十日寄
尼野貴英氏贈

工者則即英之以臧筐積而成卷
令也上出梓示同好之士耳世出
文人寸亦勿以為咲焉
文政庚寅閏三月中出花典撰



和漢俳諧集

春

初旭玉無類

兩耕

春穗三芝秀

兩席

何子もあゝと春主河しと哉

士朗

はま中人よまきま可〜と哉 臥央

くふいさ〜あもてあけら也福壽州 甫友

福壽草、英如小粒 風荷

破魔弓、的似文錢 全

門松の松よまきまを窮寝子 旭湖

以先ま日のあけら来腫存哉 碓嶺江戸

斗垣也潮は〜梅の義楚山

洲の甘と川尾飛やし梅の屯 鳳臺

見るよりも思ふふ志ろき 野梅哉 旭松

建替〜六五〜二間う免のま風 琴丸

棋サイテ開頻急普請企 對峨

桃トコロ綻必披嫁入慶 全

志の心を也 起る名のあつハ梅の屯 二洲

白魚目黒 曾洛

青柳芽黄 全

を流うるとききこゆり柳の芽 曉臺

妻のきこく柳ハきこく梅白 三洲 和樂

馬を免る見ゆる門乃柳 曾洛父 素雄

まき柳也 窓くまき 吞湖の水 其洞

麻少家の眉まき 柳うあ 其白

若学也 垣まおし 合連の馬 九山

若艸 漸醒 舟醉 春水

鶴鷓 頻催 馬眠 全

朝風のそよあたり 柳 柳洲法印

うきうきハハききハハ庭の百川 花央

清刻そらうきき世と成りあり 士岳

雪の降也こころの志免可 蒼居

夢多々寐顔のぞく人おろろ月 廣材

宇具品すの聲よたつきる一る哉 東宇

鶯 敵 籠 裏 穂 花央

柳 緑 庇 前 閑 全

鶯 菜 聲 揚 芥 雨耕

犬 櫻 咲 守 門 全

この猫よりけりもや極本室 而右

石梅也るふぬれくる軒の虫 蘭岱

誰人乃思の車そ春の月 廬月

春山人語コエ 臘オホロナリ

布泉

霞整カスカナリ 笏幽

全

一日結水う川うやうする層京 布雪

雁歸ル 万歳ニ 鄉春米ヲ 寸虹

蝶舞ヲ 少見ニ 庭拾ヲ 椿ヲ 全

招蝶ヲ 栄光ヲ 燭 松年

夢のあま所ニ くる 胡蝶哉 其洞

まき天也蝶の世終り町まきれ 汲正

まよふのりうニ 彩まきまきニ 以神櫻 子温

一雨ふも極見をりま川ニ けり 九魯

板の間はあまニ するま話一初櫻 途桂

緑交花裏坂 青岱

おとけはきい志をこし小きう様哉 里有

又よりぬ日も花とる氣の庵りり 真一

咲出木華樺 カハヤクモ 梅咲

湧流白水泉 全

山と水をいける花見う家 竹水

親材を思つて考木の様哉 橘青

念入事思れはちるあり数のを 大ッ 宇洋

花あつ山とハ喜の夕アう南 巴涼

澤春望

落花交雨佐屋廻途旅客 澤 塾狂

残月蔽霞 オホハレ 業名渡海 ハタ 船人全

咲をこしするまあり建様 龍士

連俳定月花

騏上

仁智樂山水

九山

生鮮の栂のうけさひ月夜哉

糸竹

隣うゝとの丁背戸や栂の薫

梅丘

忘霜猶覆春艸

蒼居

殘雪未消暮山

全

扇二ふ流雪の白さよ凡中二扇

おせろろや焼芋の詠の枯茶旭山

山吹や舟うゝ又うゝハ重一重三列保舟

嵐藤揚舞手

梁甫

靴音の子をたゞうゝる門や藤の花沂遊

天象思ふも花はほも又の春の暮孤山

夏

志んあつやあふよあふあふ 裕哉 秀外

右直する花のあなすけや時多 蕉鹿

川あの出つるあやあまふ 三州 棋老

氣あつ花のすもやあああの一夢

蜀魂 窸寐耳 ウカキ 其詞

このあつ鬼あああ 牡丹哉 學圃

石壇能呈音あああ 哉 芝生

あああああああああ 牡丹哉 武貫

夜の雨の時ああああ 牡丹哉 蝶二

古ああああああああ 洋 庭のあああ 京 蒼虬

雨ああああああああ 同 十丈

身ニ飛トつノの事ハ此ニ活シき暑クあル楚澤狂

藻ノ蠅ノひくも来り揮枕楚山

すしと也月と若きも松と如水

凉真中ニ有リ月
楚山

湖一面無塵
全

涼しと也一里程来り夜の明る景雨

木ノ間を目ろけふも涼哉沙鷗

眠凉驚踏石
漱石

すしと也おし合四條河京哉咲菊

夕立や牛ハ夕目の渡津田濃州巴圭

あらと也を渡ふ牛此歩り系里祐

秋のあらと也はつ道をあるの活所不轉

とめしきる顔と又きぬや蓮の玉 桃鳥

池ニハノスル載艸車走ヲ

曾洛

嶺ニハノリテ乘皇鳥トヨキ凡トヨキ

司亭

中ちり里ニ芥山又へく風くさる 大巢

梅子の雨眉やのほる茶け煙 友鳳

鶯の声ノ巢と出の時の一ちつと 古猿大津

秋

秋立蕉心冷

在江戸鳥三

阿きほふく降過し小る哉 伏石

秋聲の在明うけく寒く肌 紫扇

庭すもや星斗ある天姥川 楚雀美濃神戸

秋の糸の伏お乃燈籠三洲吉田なり 赤守

夕空を照らすあきねと秋の天 五道

花雪のふもふるふもふも 芒う南 江州 月兮

暮たるとちのち日とありて 芒芒 秋良

解のそもも 芒めくあり 秋の安ら 洲路

向うくおきし 川 秋の美 陳令

居風呂の焚火 宇川 秋の花 箕張

夕暮れ秋の安き道 秋芒 岳芝

闇夜、花、花、火 柯苗

ヒルナカ 晝時、月、月、鋒 同

秋風の吹や都ふ川 秋とら 京 世南

梅子れ 秋とら 吹や 秋の風 古次居

月のあきく 秋とら 秋とら 暮 鳳臺

面白き雲ふ月のきり入

項下 西月

月今宵汝も終夜恙なく利

在江戸 烏多

満月連城價

美濃狐兎 自得

一翫をあらはるるは月の仙 扶臺

茶をこぼす阿月りれ居るるの也 五青

夕宿更科月

澤 桎狂

朝迷田毎霧

同

月うけの雲はあつた也田のこけり 同

を明やたらくちよふ帰る里の人 棠棣

約束を待ぬも夜也渡る厂 倍中

候任の唐也暮さふの釜のちり 朝甫

秋の暮さふを一本の釣をやり 伊勢津 雲石

おしとせつおけと菊咲九月哉 大集

雀眠松菊徑 一仙

菊のよやりの日和人出入 珂水

若増酒の泉やまじり花名 梅芳

樓斟黄菊酒 棠棣

庭布丹楓題 蕉鹿

よみとせつ一とせつ菊ふふ葉哉 江州吉 虚白

何の本うふ葉して居る菊の葉 一仙

古葉表たてけつあるをみち哉 在江戸 梅室

葉紅彌目彌紅葉 曾洛

瀧白藥雲藥白瀧 鷺珀

涙し城の朝うけ待や昔ふ葉 左六

ハシチク コウフウクモクロカラス
竹 楓 雲

シラン クハウキク ミツアヒヲナス

蘭 菊 水

士 情

曾 洛

古木の松ヶけ沸く後の月 梅 咲

出る形も何となくある後の日 龍 敬

うねる日ハ何となくある十六夜 膳所 閑 齊

り燈又すゝる藤の纏や遠 石 曾 洛

花あゝや岩山よかる月細し 官 之

しゝあゝや背守よ志する堂の漏 桂 圃

囁や居所もさる花の聲 和 潮

新雪乃中ゝとらやほくく子供哉 白 鷹

剪 蔓 土 中 傷 暮 蒨 典 七

信 心 未 世 坐 蓮 華 曾 洛

冬

鷓鴣窺_ラ水鉢_ヲ

芭蕉翁

蟋蟀^{コモル}蟄_ニ燈籠_ニ

謹續
曾洛

まじく寸あ_クやまおおの極木柵

三河岡崎
卓池

月高_ク霜照_ス石_ヲ

旭湖

袖裏_ニやも_テ天_ノほ_クる_るの_声

大津
春峯

雲の朝日さ_レる_もや空_ニ飛_ぶ鳥_の影

風荷

漢和之俳諧

霜威橋上冷_シ

曾洛

う_ら水_をと_りぬ_る蘆_のう_らる_声

花央

古_の笛_ヲ迎_テ朋_ヲ出_シ

雨耕

空瓢_ニ共_ニ客_ト傾_キ

埜狂

ちる柳井戸も白の湯あり
雨席

きききききききききききき
雀十

絵やすすえこききききききき
漱石

竹齋寓下京
東宇

牛車牛牝ニ午睡
驛上

鳳輦真ニ鷄鳴
旭湖

きき蓮のちきききききききき
其洞

あふまあつふ妹る目茶
柯苗

冠共ニ容共冠
花夾

城先月先城
曾洛

うらまの山のむらび秋の風
塾狂

灰ききききききききききき
雨耕

葉よきよあききききききき
雀十

静さの世の底よある哀ふ

大津 米友

きりまけりききき日乃きん哀哉

木天

若りのるりきまに巨燧哉

勢別山田 省吾

紅楓彩雪日枝晚

岡不覺 寸龍

白鷺跨漣湖水冬

同

あきとえうもつるまりる小坂

京 杜蓼

祢む子とすくは子とも也深寐音

佳青

おあしや頼みおろく鴨の音

文刻

掛羅鴨化鳥

岳芝

負棒成狸

同

月入り雪もや冬の思ひ哉

玉水

木うしや夜よ入汐の返り

京 夙也

灰寒爐見昂ル

兩耕

けりし坐ふのこころをさう甫

大津
蕙布

糒ハクヤヒテ魁糒如雪

士岳

初雪童殊開シ

霍十

作山な香の香や表の香

芦犬

そとけり目成開く夜を雪の聲

橘臺

大雪や火々伝ふあふある

旭松

雪鳥如埃立

東宇

風鯨似鴛奔シ

同

鯨羹僅一寸

兩席

糠買ら来り了風足釣也燂拂

雲母

おほやうに松の日うけ也手の庭

曾洛

混雜

嵐山の花もあそび終つ猿

曉臺

うらみ葉もあそびのこころ五田山

蕪村

齡延枕上廬生夢

曉臺

蝶舞机邊莊子魂

同

ちるむや木の石も猿人の息

江戸野
士明

ちりり口もあそびのこころ様う家 雨耕

棟上の深きちりり出のきき哉 巨春

三日月も斜しきくは夕や哉 素川

初るむや一輪舞る花ハまき 素川實父 昆明

葉の花もあそびのこころ群雀 素川養父 徐英

山吹の志もあそびのこころ 徐英父 都真

落るしつら流るまわり合歌花讃州 茂推

新月漂波影

雨耕

流弓大將軍

早薇延手勢

插臺

援イサラシ鍛勇兵イサラシ勲

鷲鷲人乃あつ路の身くく川江戸 久藏

草堂迎墨客

半齋居士

空さのく雨よ表ふ道り多ん 貸圃

梅るあふよのうぬ見とや破れ家三州寺部 青可

比りしそ月待るの柀うあ 黙烏

紫野近丹波

白川 一句付師

白川隣黒谷

一休和尚

高峯雪奪山邊眼
翦燭齋

明浦霧粘柿本鬚
同

海鼠形淡路島
巳丸

藻虫調須磨琴
白鷹

こゝろおやきこゝろ水細のきく
軟石

子のこゝろふるこゝろ遠するお母哉
芦風

あかこゝろあふあまこゝろ管哉
圃岳

こゝろこゝろのぬしおまこゝろ呼吸
賢二

面らこゝろあふおまのよこよこ
蘭夕

能るのたこゝろあしや名二の山
立峯

掌富士山照毛拔鏡於轎中
曾洛

思吾妻路披記念文于閑裏
同

湖のまきやささき〜
帯梅

月多〜
常石

秋ぬや〜
木甫遠州

ぬれ〜
印緒

狐玉尾
鮎肢

曾洛

物〜
白鷗

路〜
梅裡

紫荊和兄典弟
蕉鹿

金釜救母兼兒
鳳岳

浮の月〜
子涯京

る〜
井眉撰大坂

湖のまきやさきしきさきさき
帯梅

月多き想ひしなよ雪の空
常石

秋ぬや雪れ笑する藪の州
木甫遠州

ぬれしきあきまきしる時ふ哉
印緒

瓢
魚
肥
腮
尻

蘿人

おとまりしきさきさきさきさき
白鷗

路のまき乃明き枯らむ小舟うお
梅裡

紫荊和兄典弟
蕉鹿

金釜救母兼兒
鳳岳

ほの月つりまやのち磨るる
子涯京

るあきや秋はほききる松のよき
井眉撰大坂

きくや心もあはれきくやきくや
五道

たけなをくふ氣味し海苔の味巴流

あの花やきくやきくやきくや
江戸護物

うさぎの舌乃より合柳
うさぎ 馬勒

花榮不老木
楚山

葉茂相生杏
曾浴



